



発行 宮沖公民館
発行人 小林 雅博
編集人 教 養 部
印刷 (株)マスダ印刷

木曾路をめぐる

宮沖ふれあいの旅

公民館の恒例行事「宮沖ふれあいの旅」も昨年度は新型コロナウイルスのため中止となりましたが10月9日(日)2年ぶりに14名が参加して行われました。

感染者が一気に増加した第7波も下げ止まり、行動制限緩和の中、全国で秋の行楽を楽しむ人も増え、人気スポットや高速道路で渋滞が発生した3連休でした。我が宮沖一行も出発前には連絡先名簿を作成、全員の検温やマスク着用、アルコール消毒や大型バスで席の間隔をあけるなど、感染対策を行い、参加者には車内での歌無しやノンアルコールに協力してもらい定刻

通り坂田商店前を出発しました。

今回のコースは高速道路で飯田方面に向かい清内路トンネルから妻籠宿散策・ホテル木曾路で昼食。午後は大桑村の定勝禅寺を見学・上松町の



ふれあいの旅参加者 ホテル木曾路玄関前

小野の滝を車窓から眺め、木曾八景の一つ寝覚ノ床を見学・買い物、中山道の難所の一つ木曾の棧から宮ノ越宿にあるNHK大河ドラマ『鎌倉殿の13人』にも登場した木曾義仲の展示館、隣接する徳音寺を見学、奈良井宿・贄川宿・洗馬宿と古き良き日本の原風景を残す中山道、木曾路をめぐる旅となりました。

江戸と京を結ぶ

中山道 妻籠宿

妻籠宿(つまごじゅく)は中山道六十九次の内江戸から数えて四十二番目の宿場にあたり、江戸時代、中山道と伊那街道が交叉する交通の拠点として多くの人が集まり、賑わいました。

明治に入り鉄道や道路が新たに造られ衰退しましたが、昭和四十年代に妻籠の人々は全国で初めて古い宿場町を保存するため家や土地を「売らない・貸さない・こわさない」

と住民憲章をつくり江戸時代の街並みという貴重な財産を後世に伝えていきます。

石畳の道や枳形の跡を歩き、明治の文豪島崎藤村の母の生家 妻籠宿本陣、初恋の人「ゆふ」さんの嫁ぎ先脇本陣奥谷、板の間、土間・囲炉裏が保存された庶民の泊まった木賃宿や当時の平民の家屋、幕府からの禁制や法度等を掲示した高札場、水車小屋などを自由見学しました。

また伝統工芸の幾重もの漆を塗り込めた木曾漆器や繊細な手技を尽くした木工品を売る店・五平餅や栗かの子を売る菓子処、木曾の地酒を並べ



た酒屋では、お目当ての買物をする人もいました。

ふれあいの旅当日の天気予報は曇り夕方から雨の予報でしたが、バスは予定時間より少し早く妻籠宿に到着、タイムスリップした様な、江戸風情が豊かな街並みをゆっくりと散策することができました。





昼食は「ホテル木曾路」でバイキング料理

◆重要文化財 定勝寺

定勝寺(じょうしょうじ)は、木曾郡大桑村にある臨済宗妙心寺派の寺院。創建は嘉慶年間、木曾家十一代当主の木曾親豊が祖先の菩提を弔う為に創建されたと伝えられる。木曾地方最古の古刹とされ興禅寺、長福寺と共に木曾三大寺の一つに数えられています。

本堂・庫裏・山門が国指定重要文化財で、今では手に入らない木曾の豊富な木材で建てられた本堂・庫裏の大きな梁・天井・うぐいす張りの廊下、書院の欄間、東洋一とも云われる木曾ひのき製たるま大坐像、改修工事の際に壁紙



定勝だるま大坐像に祈願

を剥がして発見された創建時代の千羽鶴の壁画、木曾七福神、などお寺の方に案内してもらいながら見学、短時間でしたが、多くの見所がありました。午後からは雨が降出し、木曾の小京都を想わせる鶴亀蓬萊庭園散策は次の機会とな



庫裡の案内をしてくれた方は御年95歳

りました。

◆日本遺産 寢覚ノ床

奇岩とエメラルドグリーン
の水面が美しく、県歌「信濃の国」にも歌われている名勝。木曾八景の一つで・浦島太郎が岩の上で目覚めたと言説があります。

雨のため近くの売店『めざめ亭』のテラスから幻想的な景色を眺めました。

車中で参加者に配られた信州割観光クーポンを利用してお土産をかう方もおりました。



◆義仲館と德音寺

木曾義仲は平安時代と鎌倉時代のはざま「源平合戦」で活躍した武将で現在の埼玉県で生まれ長野県で育ちました。義仲に仕える女武者・巴御前は木曾町で生まれ義仲と共に育ち、最後まで見届けたと伝えられています。

宮ノ越宿にある德音寺は木曾一族の菩提寺で隣接する義仲館は平成三年にリニューアルされ、これまで文献資料も少なく評価の分かれる義仲ですが、あえて人物像を固定せず、多目的に義仲・巴の人生を振り返り展示しています。善光寺平では越後の国から

攻めてきた軍勢を迎えうつため義仲は千曲市の武水神社で戦勝祈願したと伝えられています。
德音寺境内裏手には義仲、生母小枝御前、巴御前の墓もありました。



学芸員さんから義仲と長野(善光寺平)について学ぶ

木曾路をめぐる宮沖ふれあの旅は午後から雨となりましたが、バスの中では坂田さんから国道十九号線沿いの宿場や滝、木曾の棧などのガイドをしていただき、中山道、木曾路を満喫する旅となりました。バスは無事定刻通り宮沖公民館に到着しました。

宮沖地区人権研修会

「回想歌と語りの講演会」

11月5日(土)宮沖地区人権研修会が講師に清水学さんを迎えて開催されました。

清水さんは長野市出身のシンガーソングライターで、祖父の戦争体験手記を歌にした曲「回想」を発表。その後も県内市町村での講演会で戦争体験を聞き取り「追いかけた77の記憶」を出版するなど、音楽活動を中心にテレビ・ラジオ・イベントプロデュースなどで活動をされています。講演会では人権すらなかつ



た戦時中の話や絵本の朗読など、歌も交えて平和の大切さをお話しいただきました。

「ロシア・ウクライナ地域他紛争地では進行形で悲劇が続いていることを思うと胸が痛いですね。」

参加者からは「子どもたちにもしっかりと大切なことを伝えていきたい」とお言葉いただきました。

倶楽部 安茂里甚句

安茂里は古くからアンズの里として知られていました。毎年四月ともなれば、家庭の庭や畑に薄紅色のアンズの花が咲き乱れ、春霞の中に見事な景観をつくりだしています。安茂里のアンズは松代藩財政立て直しのため、アンズの苗木を配布して植えさせました。



第16回アモーレフェスタ令和4年10月30日(安茂里甚句保存会)

安茂里甚句は、江戸時代中期から明治四十年ごろまでアンズの収穫や田の草取りなどの時に盛んに唄われたと伝承されている伝統芸能です。

昭和五十二年に保存会が結成されたものの後継者不足等から地域の活動が停滞してしまいました。しかし平成十年ころから甚句の復活の声上がり、平成十三年に区長会や公民館の皆さん、各種団体のご協力を得て保存会が再建され今日に至っています。

次世代に引き継ぐ取り組みとしては、地区の盆踊り等の行事には出来る限り甚句踊つ

て頂いたり、安茂里小学校の運動会で普及活動を展開し、地域に広がっています。

新型コロナウイルスのため活動も休止状態となっておりますが、このような取り組みの成果により、盆踊りにも子供達が大勢参加して賑わいを増すとともに、私たちの活動により、後継者の輪が一層広がり、伝統ある安茂里甚句が末永く受け継がれていくことを期待しています。

倶楽部 「安茂里甚句」

- 会長 北島 副会長 千原
- 会計 林

- 一 ハア天気よければ 松代さんの
- ハア城の太鼓のネ
- オオ音の良さ
- 二 ハア男伊達なら
- あの犀川の
- ハア水の出鼻をネ
- オオ止めてみる
- 三 ハア小市久保寺 境の桜
- ハア花は久保寺ネ
- オオ葉は小市
- 四く九へ つづく

自分で作ったしめ縄で

新年を迎える準備

12月18日(日)公民館2階で年末恒例のしめ縄作り講習会がありました。

集まった子供達に北信地域に伝わる松飾り「ごぼう締め」の作り方を説明、「三等分したら二束を左巻に纏って、もう一束も同じように。」親子で力を合わせてもなかなか上手く出来ません、それでも帰りには自分で作った力作を手にする子供達、お正月には玄関に飾られたことでしょう。



思い出に残る成人式

茅野 朱里



令和5年1月7日安茂里地区成人祝賀会

友人の声かけがあり、私は成人式運営委員を引き受けることになりました。今回、運営委員になって企画を考える中で、新型コロナウイルス感染症予防の問題により様々な面で問題があり、思い通りにいかないことがありました。しかし、良い成人式にするために多くの人の力を借りながら企画することができました。成人式当日は中学の卒業式以来久しぶりに会う友人もいました。当時の面影を感じながらも、みんな大人になってい



7名の成人式運営委員の方々

て、自分たちも成人式を迎えたのだと感じました。成人したと言ってもまだまだ実感がわきません。学生であるのも一つの理由ではありますが、友人、家族を含め、多くの人たちに助けられています。きっとこれからも、多くの人に支えられながら少しずつ大人になっていくのだと思います。成人式運営委員になったことで、一つの催しをするにも多くの人が関わり、たくさん人の協力があることを感じました。思い出に残る良い成人式にすることができま

し、成人式にすることができました。成人式運営に関わってくださった全ての人たちに感謝致します。ありがとうございました。



戸谷さん・茅野さん(宮沖)

中学PTA宮沖支部の様子

PTA支部長

現在、宮沖地区の中学生は3年生7名、2年生10名、1年生8名がおります。私自身の息子は中学3年生ですが、中学に入学してからの3年間はコロナ禍の真つただ中での生活でした。もつと言えば小学校の卒業式ができるのか、という状況であったことが思い出されます。

そのような中で、宮沖支部としての活動も自粛せざるを得ない状況が続きました。以前は中学1年生の子が、夏祭

りの売り子を元気にやっている姿が印象的でした。今年3年ぶりの開催となった夏祭りでは、どのような形で中学生と協力して行えるかを地区役員の方々と検討しました。その中で、安全に子供たちが楽しめるようにということをご提案いただき、育成会の輪投げや射的のお手伝いをする形で参加しました。年齢も近く、よくコツや面白さを知っているお兄さんお姉さんが盛り上げてくれたので、子どもたちも楽しそうだったと好評でした。

コロナとは今後も共存していかねければならない状況にあります。ここ数年の間に実施できなかった活動もあり、役員としてはそれをどのように引き継いでいくかが課題です。ですが今後も活動を行う意義や内容を検討し、形を変えながらも、子どもや親が地域との繋がりや愛着を感じる活動を続けてほしいと思います。そうすれば、以前より更によいものになっていくのではないかと思います。

どんど焼き

1月9日 宮沖中央遊園地で無病息災・健康長寿・疫病退散を願ってお正月恒例の行事「どんど焼き」が行われました。



大勢の区民の方が参加されました

編集後記

新型コロナウイルスの感染については『ウィズコロナ』が提言される社会活動の制限も緩和されつつあります。公民館の予定の活動も感染対策や規模を縮小して実施され、78号79号館報にて報告する事が出来ました。今後も多くの方が興味を持って頂き参加して下さることを願っています。(Y)